



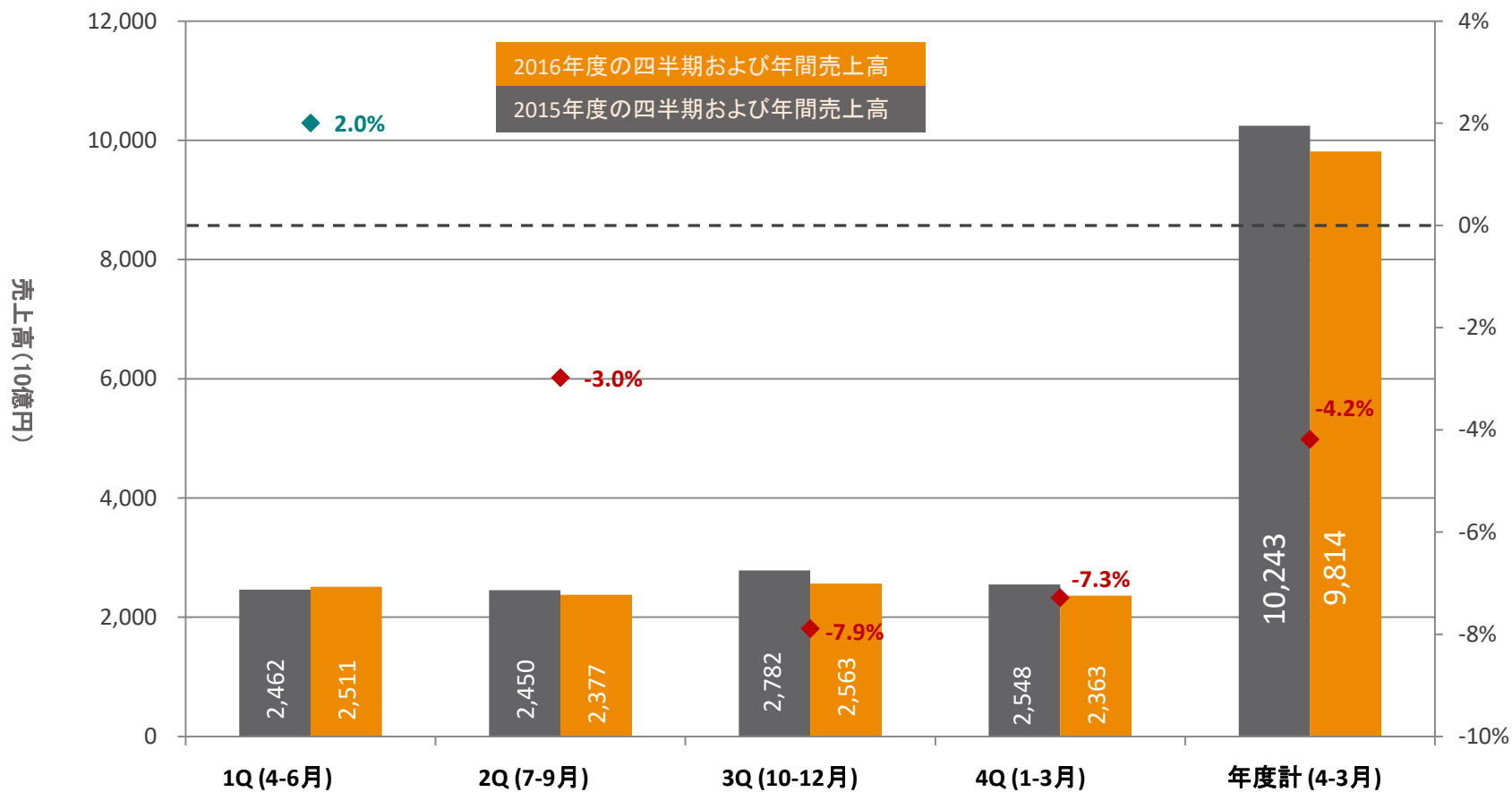
エンサイス スナップショットデータ

(薬価基準ベース)

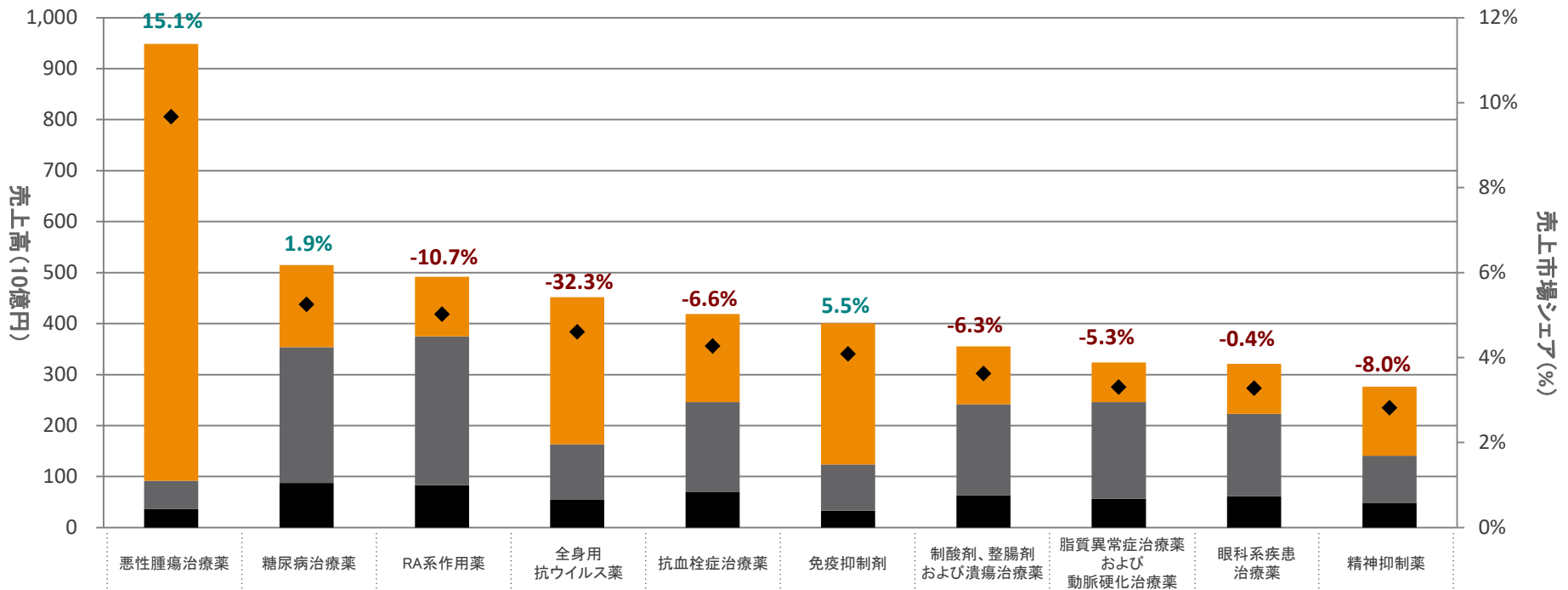
2016年度
(2016年4月 ~ 2017年3月)

本レポートは、当社が収集した医療用医薬品に関する情報を基礎としてエンサイスリサーチセンターで加工、編集又は推計を行ったものであり、
当社は本情報の正確性、網羅性、その他本レポートが一定の内容や品質を備えることを保証するものではありません。

前年度との比較 (各四半期、年間比)



医療用医薬品売上上位10薬効分類

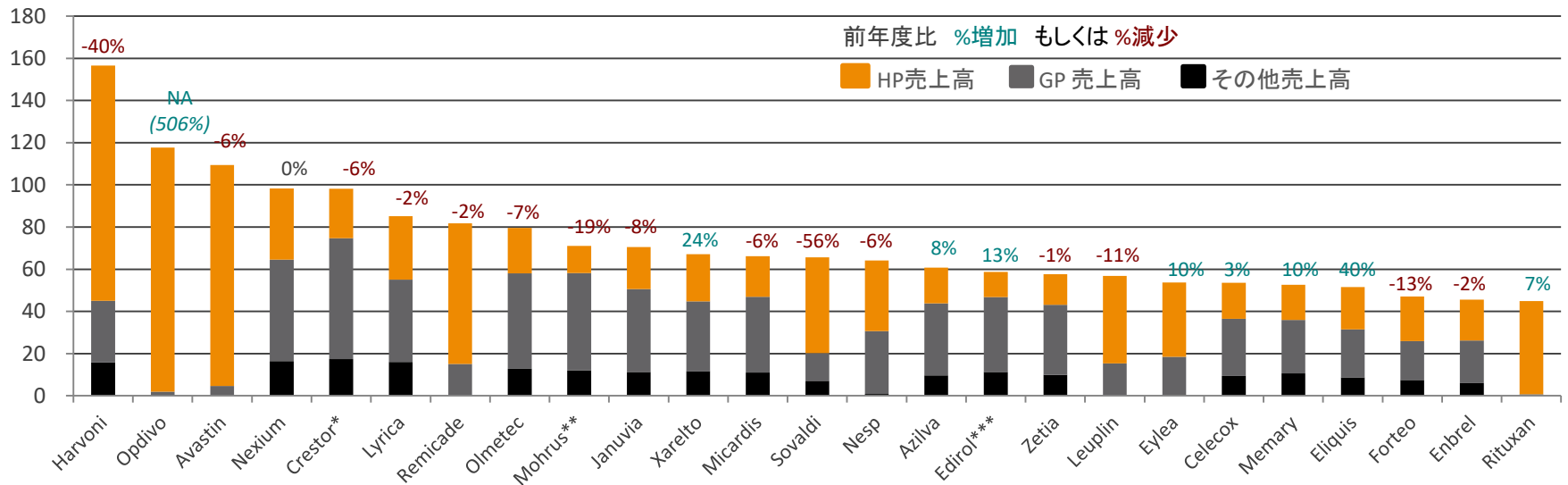


売上高チャネル定義: HP売上高: 100床以上の病院の院内処方と院外処方の合計 | GP売上高: 100床未満の病院や診療所の院内処方と院外処方の合計 | その他売上高: HP売上高、GP売上高以外の合計

- 上位10薬効分類の売上高が医療用医薬品全体の約46%を占めている（4兆5,028億円、前年度比4.9%減）。
- **悪性腫瘍治療薬（オンコロジー）**：小野薬品工業の**オプジーボ**（1,176億円）の売上拡大により、前年度比約15%増で成長した。オプジーボを除くと、前年度比は約3%増にすぎない。その他には、イーライリリーの**サイラムザ**（332億円）が主要製品であった。ヤクルトの**エルプラット**（232億円、前年度比26%減）、中外製薬の**アバステン**（1,095億円、前年度比6%減）、ヤンセンファーマの**ベルケイド**（214億円、前年度比22%減）が売上が減少した主な製品であった。悪性腫瘍治療薬は、オプジーボの効能追加やMSDの**キイトルーダ**の上市、新薬開発段階にある複数の薬により成長が見込まれる。
- **抗ウイルス薬**：ハーボニー（1,565億円、前年度比40%減）とソバルディ（656億円、前年度比56%減）、 Bristol-Myers Squibbの**C型肝炎薬（ダクルインザとスンペプラで合計743億円減）**の売上減少により、前年度比32%の減少。
- **RA系作用薬（ARBが主流）**：主要製品の**カンデサルタンの特許切れ**によって同フランチャイズ（プロプレス、エカード、ユニシア）で約290億円減となった。他のARBも売上を鈍らせている。

医療用医薬品売上上位25製品

売上高(10億円)

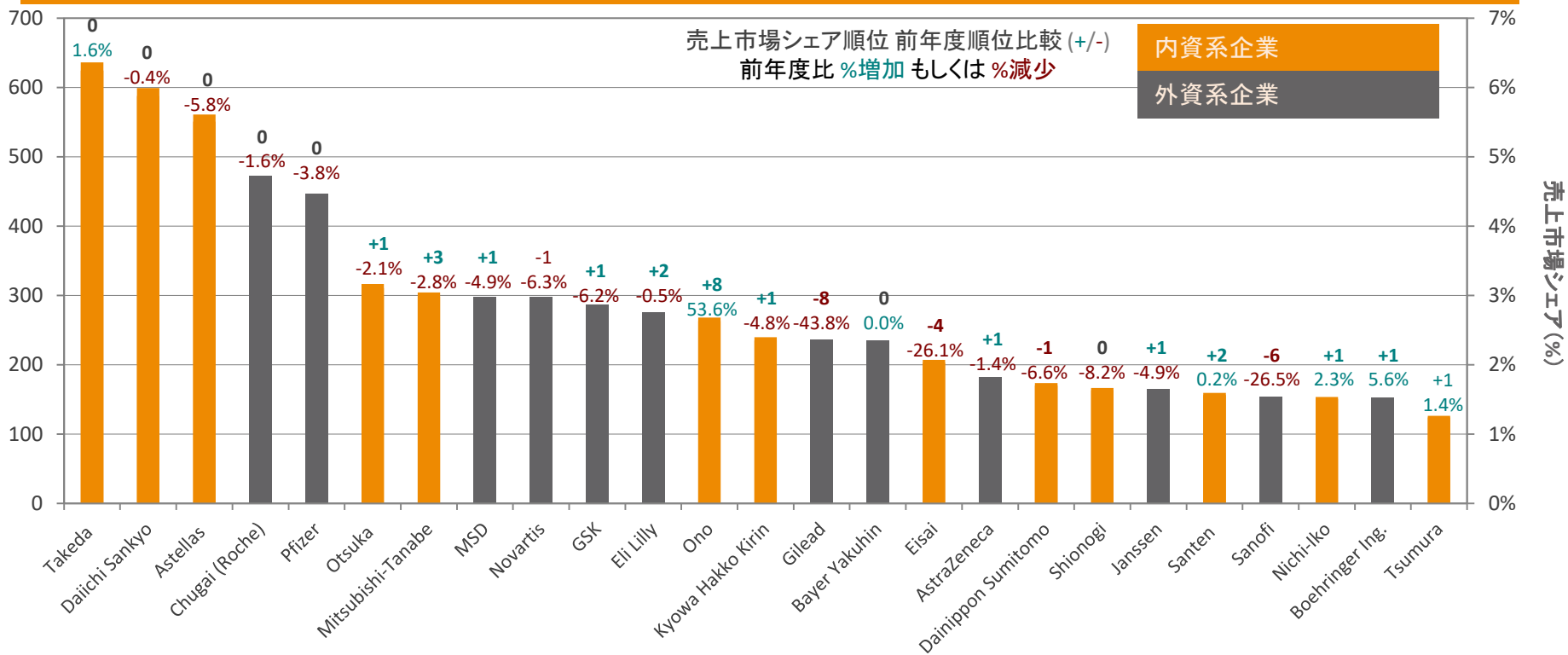


売上高チャネル定義: HP売上高: 100床以上の病院の院内処方と院外処方の合計| GP売上高: 100床未満の病院や診療所の院内処方と院外処方の合計| その他売上高: HP売上高、GP売上高以外の合計

* 合計売上高 (塩野義製薬とアストラゼネカ) ** 合計売上高 (久光製薬と祐徳薬品工業) *** 合計売上高 (中外製薬と大正富山医薬品)

- 2016年度の上位25製品の売上高は1兆8,142億円であり、全医療用医薬品売上高(9兆8,138億円)の18.5%を占めた。
- 同期間の上位25製品の売上高比率は2015年度と比較して1.6ポイント減少した。主な減少理由は2016年4月に行われた薬価改定と後に挙げる医薬品に関連した緊急薬価改定のためと思われる。
- 主要成長医薬品:** オプジーボ(導入期の高成長、複数の効能追加が準備中でもあり、勢いを維持している)、イグザレルトとエリキュース(特許切れのプラビックス市場に代わる第Xa因子阻害薬の主力製品)、これらは成長医薬品内の主要な医薬品であった。
- 主要鈍化医薬品:** ハーボニー(特例拡大再算定により成長は減速しつつある)、ソバルディ(約1年前に売上高のピークを迎えた、ハーボニーの上市に伴って停滞)とモラス(主に薬価引き下げによる)、フォルテオ(販売数量は伸びているが、約19%の薬価引き下げが主な理由)が同期間で売上が鈍化した主要な製品であった。
- 2016年度に上位25製品入りした医薬品:** オプジーボ(1,176億円)とアイリーア(537億円)、メモリー(526億円)、エリキュース(515億円)、エンブレル(455億円)、リツキサン(448億円)が新たに上位25製品に入った。
- 2016年度に上位25製品から外れた医薬品:** プラビックス(440億円)とジプレキサ(406億円)、ロキソニン(439億円)、アリセプト(403億円)、シングレア(396億円)、キプレス(382億円)が2016年度上位25製品から外れた。

医療用医薬品売上上位25社*



* 販売承認企業による売上高

- 2016年度の上位25社の売上高合計は6兆9,785億円（前年度比5.7%減）であり、国内医療用医薬品全体の売上高の71.1%を占めた（前年度比1.1ポイント減）。
- 上位25社中、内資系企業と外資系企業の売上高比率は55:45となり、内資系企業の売上高は3兆8,380億円（前年度比1.8%増）、外資系企業の売上高は3兆1,405億円（前年度比13.4%減）。
- 前年度比で唯一目覚ましい躍進を見せたのが、オプジーボの堅調な伸びのある小野薬品工業。対して、前年度比で苦戦したのが、ギリアド（ソバルディとハーボニー合計で約1,804億円の売上減少により、前年度6位から今年度14位となった、特例拡大再算定も一部理由）、サノフィ（プラビックスの特許期間切れが主な理由）とエーザイ（主力製品アリセプト、パリエット、メチコバルの売上減少が主な理由）である。